



2016年12月12日

各位

会社名 テルモ株式会社
 代表者名 代表取締役社長 新宅 祐太郎
 (コード：4543、東証第一部)
 問合せ先 広報室長 大曲 昌夫
 (TEL 03-6742-8550)

テルモ、5カ年の中長期成長戦略を策定

— 10年先を見据え、日本発のグローバル企業としてさらなる成長を目指す —

テルモ株式会社（本社：東京都渋谷区、社長：新宅 祐太郎）は、2017年4月からの5年間を対象とする中長期成長戦略を策定いたしました。日本発のグローバル企業として、10年先を見据えた戦略を軸に、持続的かつ収益性のある成長の実現に取り組んでまいります。

中長期成長戦略

①グローバルでは選択と集中

高度医療を支えるために不可欠な製品や独自の技術力を活かして、グローバルでは、カテーテル、脳血管、ドラッグ&デバイス（薬と医療機器を組み合わせる付加価値を高める領域）、血液治療などの成長する領域、競争力のある分野に注力します。

②日本では総合力の発揮

テルモのホームグラウンドである日本では、幅広い製品構成や医療現場との広い接点、確立した流通網などを活かして、医療機関や地域のニーズを満たし、成長機会を追求します。

③イノベーションの推進

グローバルに展開するイノベーション拠点やコーティング・微細加工に代表される幅広いコア技術を活かして、自社開発とオープンイノベーションの両輪で、社会的インパクトの大きい未来医療の開発を進めます。

中長期成長戦略における経営目標

想定為替レート：USD=105円、EUR=115円

	方針	目標
成長性	市場拡大ペースを上回る成長	売上高 : 一桁後半の成長
収益性	売上成長を上回る利益成長	調整後営業利益 ^{※1} : 二桁成長
		調整後EPS ^{※2} : 270～300円 ^{※3}
効率性	適切な効率性水準を維持	調整後ROE ^{※4} : 10%以上を維持

^{※1}買収に伴い生じた無形資産償却や一時費用等を除いた営業利益

^{※2}買収に伴い生じた無形資産償却や一時費用等を除いたEPS（一株当たり当期純利益）

^{※3}最終年度2021年度時点

^{※4}純資産に含まれる買収関連資産に係る為替換算調整残高を除いたROE（株主資本利益率）

詳細につきましては、当社ホームページ掲載の資料をご参照ください。

<http://www.terumo.co.jp/ir/library/financial/material.html>

尚、売上高等の業績見通しについては、引き続き各期の決算発表での開示を予定しております。

(注記)

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。

以上